

久留米の自然



久留米の自然128号
2016年9月1日

和名：ラミーカミキリ
学名：Paraglenea fortunei
撮影日：2016年6月13日
撮影場所：久留米市上津町浦山公園
撮影者：大木武彦

ラミーカミキリ

大木 武彦

ラミーカミキリは甲虫目、カミキリムシ科に分類され、体は体長8-20mmの青っぽい黄緑と黒色に色分けされ、体表にはビロードのような材質感がある美しい小型のカミキリムシです。前胸の背中側には2つの円い黒点があり、パンダやロボットの顔に見えたりして子供達には人気があります。色や斑紋には個体差が見られます。成虫は5月-8月ごろに発生し、ラミー、カラムシ、ヤブマオ、シナノキ、ムクゲなどに集まり葉や茎を食べます。幼虫もこれらの植物の茎や根を食べます。冬季には幼虫状態で地中の株の中に入り、5月ごろから蛹化し、まもなく成虫となり外部に出

ます。インドシナ半島北部から中国、台湾、九州、四国、本州に分布します。国内では温暖化にともない分布域が北上傾向にあります。

カラムシの栽培種ラミーは、大変古い時代から衣服などの繊維を採るために栽培されてきました。今も栽培されていて、日本で一般的に見られる、ざらざらして腰の強い麻の繊維や布はこれです。ラミーカミキリは英国人昆虫研究者 G・ルイスが長崎で採集したもので、明治初期に中国から輸入されたラミーにくっついてきた帰化昆虫だと考えられています。

郷土の樹木 24

ヤナギ 猪上 信義

通称ヤナギと言われるものには、樹高20mに達する巨木から、10cm程度の小低木まであり、生える環境も水辺から乾燥した草原や岩場など様々ですが、すべて落葉性で雌雄異株、北半球を中心に400種ほど知られています。

まず始めにアカメヤナギ(別名マルバヤナギ)ですが、新葉は赤みを帯び、成葉は広楕円形で縁に細かい鋸歯があり、托葉は半円形でかなり大きく、ボケのそれを思わせます。池沼の縁や流れの緩やかな河畔に生えます。昔はクリーク脇に植えて、葉や新枝を緑肥にしたり、太い枝を使って、刈り取った稲を乾燥させたりするのに使われました。材は白く柔らかく、箱材や下駄材に利用されました。日本では関東以西～九州、それに中国中部に自生しています。

久留米市山本町豊田の永勝寺そばの谷あいには樹高約18m、胸高直径約1mの巨木があり、樹齢200年くらいということで久留米市の文化財に指定されています。その麓に柳坂という地名があり、これと関連づける人もいるようですが、一般にアカメヤナギの成長はきわめて早く、寿命はそれほど長くないので、その説は当たらないと思います。その証拠に近くの資源開発研究センターの調整池にあるアカメヤナギは約40年前に小生が挿し木で増やしたのですが、すでに胸高直径75cm位に達しています。



左アカメヤナギ、右オオタチヤナギ葉表

次にオオタチヤナギは筑後川やその支流巨瀬川や宝満川などのやや流れがよどむ場所に群生しているので、目にすることが多いでしょう。洪水時と渇水時に対応するこの植物は、有史以前から河畔に見られる自然植生(生態学でいう植生自然度では最上の10にランク)と考えられています。日本では北海道・本州の一部、それに四国・九州に自生しています。

樹高は4～10m位で、葉は披針形で先は尖り、葉裏は粉白色を帯びています。枝の分かれ目はもろく、折れやすいのが特徴です。これは植物にとって一見マイナスのように思われますが、頻繁にある洪水や強風時に枝を折ることにより抵抗を小さくするとともに、落ちた枝が川岸に引っかかり、そこで根を出して新たな個体を作るための、いわば植物の戦略と考えられます。

近年のように河川工事が行われると、洪水が減少して根こそぎ流されることがなくなり、そのためかえって繁茂して、川の流れを阻害するという皮肉な結果をもたらし、ときどき河川管理者により伐採されることもあります。しかし数年もすると他の場所で繁茂しています。植物というものは環境さえ与えられればしぶとく生き延びるのです。

そのほか久留米市近郊のヤナギには、筑後川河畔でオオタチヤナギに混じってタチヤナギが稀に、耳納山地の日当たりのよい草原や林縁にはヤマヤナギが普通に、高良川上流の河畔にはネコヤナギがやや稀に見られます。



左アカメヤナギ、右オオタチヤナギ葉裏

高良川流域のキノコ(その30)

角 正博

今回は、オツネンタケ属 *Coltricia* です。現在は、多孔菌科からタバコウロコタケ科所属になっています。そう言われてみれば、ニッケイタケの繊維状の傘やピロード状の柄は、タバコウロコタケ科所属のキノコの鱗片に似ています。またニッケイタケには絹状の光沢こそありますが、同属のネンドタケモドキなどをイメージするとその褐色系の色合いや質感は、粘土色のタバコウロコタケ科所属のキノコにつながるものを感じさせます。

50. ニッケイタケ(肉桂茸)

Coltricia cinnamomea

高良川流域では、6月下旬～10月中旬頃、山道に沿う土が露出した法面の崖あるいは崖下の路傍脇などに、しばしば群生して見られます。硬質菌のため、乾燥には強いようで、ベニタケ類などが休んでいるような、いわゆる「梅雨明け十日」のカンカン照りの真夏でも、ニッケイタケだけは元気で、あちこちに顔を出しています。しかし、さすがに雨が降らない日が長く続くと干からびて、傘がゆがんでしまうのが少し哀れです。

子実体は有柄で、柄は傘の中心について直立する中心生です。柄は中実で硬く、表面は褐色～暗褐色、ややピロード状で、長さは1.5～3cm程度です。傘径は、1cm前後～3cm、時に大きなものでは4cm程度になります。傘の厚さは中心部で3mm程度、傘の周縁部はしばしば不規則に切れ込み、中心部より薄くて1.5mm程度になります。傘の中心はへそ状にややくぼみ、ややもろい革質で、表面はさび褐色～黒褐色、一般に同心的環紋は明瞭であることが多いようです。また傘には放射状の繊維紋が圧着して、絹糸状の光沢を放っています。小さな硬質菌ですが、成熟したやや大ぶりのニッケイタケに近づき、見る角度を変えてよく観察してみると、傘表面の絹糸状光沢が生み出す深い色調はなかなかの美しさで、つい写真を撮ってしまいます。裏面の管孔は淡褐色～褐色で多角形、孔口の大きさは2

個程度/mmと比較的大きめです。

時期が早いと、クロサイワイタケの一種かと早合点してしまいそうな幼菌に、戸惑うことがあります。山道の斜面という生育環境と、先端はやや開いてへら状、褐色で表面はピロード状を帯びていることに気づいて、漸くニッケイタケの幼菌であることに納得します。



ニッケイタケ

高良川流域の地衣類(その18)

角 正博

今回は、前回の「レカノラ型子器」に対して、高良川流域の固着(痂状)地衣の中でも主に「子器が椀状・皿状で、子器の周囲(果托)の色が黒色か盤の色とほぼ同じレキデア型子器」の地衣類および「子器が長くひも状のリレラ型」の地衣類の簡易検索表とします。

2. 子器が椀状、皿状で、子器の周囲(果托)の色が地衣体の色と同じでレカノラ型子器に似るが、成熟すると子器は全縁でなく、歯牙縁である。
→バラゴケ科バラゴケ(近隣では、高良山、みやま市清水山、八女市三国山、福岡城址などで見られる。)

2. 子器が椀状、皿状で、子器の周囲(果托)の色が黒色か盤の色とほぼ同じ(レキデア型子器)である。

3. 暗黒色～黒褐色の子器をつける。
4. 岩上に生育する。
5. 風化した腐り礫などの軟らかい岩上に生育し、地衣体に灰色の粉霜をつける。→イボゴケ科イボゴケ属ハコネイボゴケ
4. 樹皮上に生育する。
5. 子器盤は黒色で黄色の粉霜をつける。→リトマスゴケ科カシゴケ属

3. 青緑色の子器をつける。
4. 岩上に生育する。地衣体は灰白色から淡青緑色、直径は10cm以上にもなる。粉芽も裂芽も欠く。子器は直径1mm程度の無柄円形皿状。子器盤は扁平、灰白色から青緑色、周囲の果殻は黒色で縁どられているように見える。→ヘリトリゴケ科ヘリトリゴケ属ヘリトリゴケ

2. 子器がひも状(リレラ型)である。

→モジゴケ科

3. 子器が灰白色で幅が1mm以下である。→モジゴケ科スジモジゴケ属(高良川では見えていないが、近隣の高良山、みやま市清水山で見られる。)

3. 子器が黒色で幅が0.5mm以下である。

4. 子嚢胞子は褐色である。→モジゴケ科ボンジゴケ属ボンジゴケ(高良川では見えていないが、八女市星野で見られる。)

4. 子嚢胞子は無色である。→モジゴケ科モジゴケ属

5. 岩上に生育する。→カバイロイワモジゴケ(高良川では見えていないが、近隣の高良山、みやま市清水山、八女市立花町松尾などで見られる。)

5. 樹皮上に生育する。→樹皮上生のモジゴケ類

3. 子器が集合して円形または長円形になる。子器は疣状のストローマ状組織に包まれる。

4. 子嚢胞子は5室以上である。子器は多数集合し、子器を包むストローマ状組織は通常盛り上がる。→モジゴケ科アミモジゴケ属アミモジゴケ

4. 子嚢胞子は4室である。→モジゴケ科ホシダイゴケ属ホシダイゴケ(高良川では見えていないが、大牟田市勝立で見られる。)

第35回くるめ緑の祭典グリーンキャンペーン において野口勝司氏が緑の貢献者表彰

橋田 沙弓



表彰された野口勝司氏

平成28年5月5日(子どもの日)午前10時、鳥類センターにおいて、第35回くるめ緑の祭典グリーンキャンペーンが開催されました。

その5団体と個人表彰6名の部で当会会員の野口勝司氏が表彰されました。野口勝司氏は1923年(大正12年)生まれ、元高校教諭、生物、地学(福岡県)。自宅の前を流れる金丸川水系下流の水質・水生昆虫、魚類、野鳥などを毎日のように観察されました。365日中、350回くらいは行った。平成7年6月15日環境庁(水質保全局長)より、「水環境賞」を受賞されました。金丸川水系水質・生態調査経過報告書の内容

A 生態系に及ぼす外的条件

- 1 筑後大堰建設後の潮流の変化
- 2 流域の改良修理、拡張
- 3 下流域の水田地帯の変化(工業化、住宅化)

B Aに伴う水質の変化

C 生物相互関係

例 1. カラスの移住(山→街へ)

2. 帰化植物の競合

上記ABCにより金丸川に生息する水生生物が過去25年間にどのように変動したかを追跡したものです。

ひととき 動物笑い話 その72 タテガミを捨てたライオン 米田 豊

ライオンは血縁関係にある雌とその子供がプライドという群れを作り、数頭の雄が結び付きのゆるい連合体を作って縄張りを守り、雌と交尾する。雄は雌より大きくタテガミを持つが、狩りせず、雌が仕留めた獲物を真っ先に食べる。ケニアのツァボ国立公園のサファリでライオン達が仲良く食事する現場に遭遇し、「あれ、雄は食い終わっていないのかな」「よく見て、股間に一物をぶら下げているのがあるよ」「雄にしてはタテガミが貧弱で、イメージダウンだ。雌みたい」。ここで、ガイドが説明に入り、「この土地はとても暑いので、タテガミはかえって生活に不利になります。また、獲物も少ないので基本的には各自が小さな獲物を狩り、数少ない大型には雄雌協力して狩りをし、食事と一緒にです」「雄のプライドより、生活優先ですね。優しい雄に感動するわ」と女性たち。*ウガンダ鉄道の敷設工事時、現在のボイ付近で工事関係者120名余がライオンに殺された。戸川幸夫はこれを題材とし、「人喰い鉄道」を書いた。

生き物に魅せられて その30

カネタタキの巻 松永紀代子

広島の上石流などで、雨の降り方が変わったとだれもが認めた2014年の夏だった。9月に入り、地下鉄駅舎に隣接したビル工事の不備から、多量の雨水が線路を冠水させるという大きな被害をもたらしていた。そんなことがあった日の夕方、庭では穏やかな虫の音が響いていた。

マンリョウをツツツツと下りて来た小さな昆虫、ウスグモスズかと思って近づいたところ、カネタタキだった。

なんと、目の前でチン、チン、チン……。初めて鳴いているところを目撃した。これは是非カメラに、と近づけたところ、ツツツツ、枝を上げて葉かげに消えた。とその葉陰から、チン、チン、チン……。鳴き止んだ。あっ、また動い

た。私がそばにいて鳴くことに集中できないのだろうか？

他にもあちらでも、こちらでも、チン、チン、チン……。マンリョウの一匹の鳴き声を耳で拾ってみることにした。チン、チン、チン、チン、チン、……。12回。また止んだ。下の方からチン、チン、……。どうやら、彼らは頻繁に鳴く場所を変えているらしい。

これまで、何度も鳴き声を頼りに、みを探していたけれど、見つからなかったわけである。あちらからも、こちらからも場所を変えチン、チン、チン、……。きっとあちこちに♀が潜んでいるんだろう。

例会報告

第426回例会 筑後川春の野草を愉しむ会

橋田 沙弓

3月27日(日) くるめウスのテラスで恒例の「春の野草を愉しむ会」を開催しました。いつも天気気がかかるのですが、今年は前日の事前採集会もお天気に恵まれ、スタッフ6人で行いました。いつもの山本町の柳坂周辺で、まずユキノシタを摘み、それから、ミドリハコベ、オドリコソウ、ツクシ、ヨメナ、セリ、ヤブカンゾウ、ヨモギ、ノビル、ナノハナ、ナズナなどを摘む。それから、ふれあい農業公園に移動し、オランダガラシやツバキの花などを摘む。また、筑後川沿いに移動し、スマレの花、シロバナタンポポなど、また、そのときにであったノアザミの葉などなど。

それからが大変、よもぎだんごやヨモギミルクゼリーの準備、ヨモギ練りこみ団子汁の準備など。時にはごはんも団子汁の準備も。それに参加した人たちのためにパンフも準備する。朝まで寝る暇もない。翌日、朝8時30分には家をでる。車にお箸やお皿の準備、お玉もわすれないように。

前日に調理用具は軽トラックでくるめウスに運搬してもらう。このような準備があつてこそ、何

事もないように、野草を食べる行事が毎年開催される。忘れないでほしいのはスタッフの協力です。

当日のために、火を使うので消防署にも届出が必要。くるめウスでもいろいろ注意事項が確認される。くるめウスで開催する理由は交通の便がより。高良川がきれいで食べられる野草を摘むことが可能。このような好条件で長く続いているのであろう。

何でも手に入れられる世の中で、春らしい野草を食べる幸せも得がたいものであろう。これからの未来の子どもたちにも受け継いで欲しいものである。参加者26名でした。



参加者で調理した野草料理



調理した野草料理をテラスでいただきました。

参加者の感想

久留米市 今村悦子

今日は、大変な良い日でした。初めての自然とのふれあいで、外での食事は大変おいしく楽しかった

たです。また、来年も参加したいと思っています。先生ありがとうございました。おつかれさまです。

久留米市 中園弘子

初めて食べる野草もあり、ジュースもののでおいしかったです。色々な野草が食べられるんだなあと思いました。ありがとうございます。おつかれ様でした。

古川なおみち

子ども2人 6歳 3歳は仲良くなって楽しんでいました。やきそばはやさいはっぱ最高でした。

吉野ヶ里町 古川まゆみ

いろいろな野草について、調理法効能まで教えていただき大変ためになりました。暖かい春の日差しの中で、散歩しながら楽しく学ぶことができました。筑後川を眺めながら会食し、とてもおいしく野草の苦みも体にしみわたりました。家でも今日学んだことを役立てていきたいと思います。今日は準備から大変でしたでしょうか。どうもありがとうございました。

久留米市 落石万緒

りょうりをつくるのがたのしかった。

八女郡広川町 石井峯子

初めて参加しました。風は冷たかったんですが天気に恵まれ知らない方も気軽に言葉をかわし学び時間でした。野歩きもセリ、クレソン、たんぽぽ等説明を聞きながら勉強になりました。皆で作ったご汁、天ぷらよもぎ餅等美味しく頂きました。

久留米市 増崎勝子

初めての参加で木の実や葉っぱの種類など教えていただきとても勉強になりました。次回もまた参加したいです。

第427回例会 高良山・樹木の名札付けと豚汁会**河内 俊英**

今年も5月に樹木の名札付けが開催された、この行事はかれこれ20年くらいになりますが、せっかく付けた名札は、1年くらいしか持たないようです。その為に、何年やっても残らないのは残念だが、個人的には成果も出てきている。

随分と樹木名が出てくるようになった。イヌビワ、ハゼ、エノキ、ヤブツバキ、ヤマモモ、ネジキ、カゴノキ、コナラ、スギ、ヒノキ、アカマツ、クチナシ、マンリョウ、ヤブコウジ、アリドオシ、オオアリドウシ、エゴノキ、モチノキ、ネズミモチ、ミミズバイ、ボロボロノキ、シロバイ、アオキ、ミズキ、コシアブラ、イズセンリョウ、ヒサカキ、ミツバアケビ、アセビ、ムベ、ネムノキ、ヤマビワと高良山の樹木は少しわかるようになった。ブナ科のドングリ類の区別を覚えるともう少し増加するはずである。名札を付けた場所を散策するときは、復習しながら通れることもウレシイ。

今回は小さな子ども連れの方が3組ほど来られていた。まだオンブの子どもと3歳、5歳という感じの3人も手を引いて参加されていたことは、ウレシイことである。将来的に子どもが山や自然を好きになるかは、不明であるが、キット良い思い出になるであろう。これも橋田先生の豚汁・ランチ付きの効果であろう。7月のキノコ観察会にも又参加されていたから、昼食を準備しなくても参加できることと、お昼にながが出るのかも参加の動機になっているようで、橋田先生に感謝です・素晴らしいことです。



さてどの木に名札をつけようか。

参加者の感想**久留米市 古賀良人**

高良山へ登り始めて55年になりますがかかなり変わりました。しかしまだまだ自然は残ってます。大切にしたいです。

筑後市 山中喜子

自然は奥深く、新しい事を知る日になりました。野草の名前は少しづつ覚えても木を知る事はなかなかない。その木の四季も知りたいと思います。また次回も参加したいと思っています。

春日市 伊佐哲騎

山の中を歩くのは、とてもきつかったけど、とんじるや竹の子ご飯はおいしかったし、自分が書いた名ふだもつけることができたのでうれしかったです。

久留米市 田中かの子

名と樹が一致なくて又いつもすぐ忘れてしまいます。今日は、自分で名札をつけたのでしっかり覚えたいと思います。豚汁とタケノコ御飯もおいしかったです。有りがとうございました。

久留米市 金城智子 道博 達博

初めて知った木の名前を覚えられて良かったです。

(道博 11歳)木の名前が分かって楽しかった。

(達博 17歳)名前は知っていたけれど実物を見て感激しました。(智子)

久留米市 塚本佳子

初めて参加してみて色々な樹木があることをしりました。私は2つだけしっかり覚えて帰れます。子供たちとゆっくり山を歩いてたのしかったです。ありがとうございました。

久留米市 大木柚佳

すごく楽しかったです。べんきょうになったので、またきます。

第428回例会キノコの観察会とキノコカレーの会**丸山 由紀子**

7月10日(日)今年も高良台演習場周辺で、キノコの観察会を行いました。講師の金子周平先生には毎年指導をお願いしており、参加者の中にもおなじみの方が多数いらっしゃいました。気温・湿度ともに高いという「キノコ日和」に、11名の参加者は、キノコを探して、土手・木の幹・落ち葉の間と目を凝らしました。毎年同じ場所で観察を行っている、(名前は忘れても)おなじみのキノコが見つかりますが、それだけでなくシロテングタケなど今年のニューフェイスもありました。今年は全部で45種のキノコを観察することができましたが、その中でも特に立派で、これぞキノコ!!という感じだったのは、傘の直径が13cmはある真っ白なシロオニタケでした。みずみずしく新鮮で、虫にも食われていないフレッシュなシロオニタケは、とても印象的でした。今度またいつ会えるか分からないキノコとの一期一会も、楽しみの一つだと思います。たくさんのキノコを抱えて、上津小学校近くの福山さんのお宅にお邪魔し、全員でキノコたっぷりのカレーを味わった後、金子先生から今日の収穫の説明をいただきました。

参加者の感想**筑後市 山中喜子**

今回初めてきのこの会に参加させて頂きました。初めて見るきのこの種類ばかりで、本やTV等で見る情報だけだと知りえないコトばかりでした。アンズ茸は特に印象に残りました。香り等も感じていけたらいいなと思いました。是非、次回もお願いいたします。

久留米市 塚本佳子

「きのこ」のこと、全く知らなかったんですが、こんなに種類が多いのは初めて知った。よくみたら、色んな所にきのこがあることを知ったし、木の中に空洞があって、その根元にきのこがありその木が倒れるかもしれない予想ができることを初めて知りました。また勉強したいなあと思いました。カレーまで色々ありがとうございました。

久留米市 山田一美

食べられるきのこを教えてくださいました。5歳の子と10歳の子ともいっしょに参加させて頂いて、久留米の自然の豊かさに目を輝かせていました。本当にありがとうございました。きのこのたくさん入ったカレーもおいしかったです。ごちそうさまでした。

久留米市 大久保邦子

よく見るとたくさんのきのこが山の中にはえているのでとてもおもしろかったです。見分けるのはとても難しいなと感じましたが、山の中を歩き、緑にふれるのはとてもたのしかったです。ありがとうございました。

久留米市 大木恭子

28種類ものキノコを見つけられました。たくさんのキノコに今年も会えてうれしかったです。キノコカレーもとても美味でした。ありがとうございました。

久留米市 田中かの子

2回目です。色、形が多様で不思議です。幾つか名前が覚えられました。カレーも美味でした。

久留米市 野崎和子

梅雨の晴れ間に生まれ、いい気分転換になりました。登山をしてるのですが今日のきのこ観察でまた異なった方向の楽しみが出来そうです。特に猛毒という“シロタマゴテングダケ”が見つかったのには、興味シンシン～。参加された子供さん達とのふれ合いが出来、またお昼のきのこカレーには感激しました。ありがとうございました。

久留米市 重松玲子

山にはよく登りますが、じっくり道端をみながら歩く事はありませんでした。キノコの種類の多さにびっくり!!近場にこんなに生えているとは思いませんでした。すごく勉強になりました。

久留米市 金子真由美

むし暑い中きのこたちは喜んで雨あがりの森や林に顔を出していました。白、赤、黄、茶、黒など色も形も大きさもいろいろで宝探しのようにおもしろい。投票日で駐車場が困ったり、移動のため遅れた人の対応などたいへんだったと思います。ランチのきのこ入りカレーおいしかったです。お世話になりました。(きのこ観察会には蚊対策を。長そで長ズボン!)

牛嶋涼香

きのこがたくさん種類あることを知り驚きました。自分が知らなかったきのこを知れて良かったです。また、初めて食べたきのこカレーはとても美味しかったです。ただ途中さんかだったのが残念でした。

佐藤陽笑

多くの種類のキノコがあることがわかりました。
身近に自然を感じられて良かったです。カレーご
ちそうさまでした。おいしかったです。

※当日観察されたキノコのリスト

金子周平先生の同定です

科名	属名	
ハラタケ類		
タマチョレイタケ科	ケガワタケ属	ケガワタケ属
ヒドナンギウム科	キツネタケ属	ウラムラサキ
	〃	カレバキツネタケ
ツキヨタケ科	モリノカレバタケ属	アマタケ
ホウライタケ科	ホウライタケ属	ハナオチバタケ
	〃	ホウライタケ属
テングタケ科	テングタケ属	カバイロコナテングタケ
	〃	ドウシントケ
	〃	ツルタケダマシ
	〃	コテングタケモドキ
	〃	クロタマゴテングタケ
	〃	シロタマゴテングタケ
	〃	シロテングタケ
	〃	ヘビキノコモドキ
	〃	ミヤマタマゴタケ
	〃	ササクレシロオニタケ
ウラベニガサ科	ウラベニガサ属	ウラベニガサ
アセタケ科	アセタケ属	シラゲアセタケ
イッポンシメジ科	イッポンシメジ属	シロイボカサタケ
イグチ科	キイロイグチ属	キイロイグチ
	ヌメリコウジタケ属	ヌメリコウジタケ
	コショウイグチ属	コショウイグチ
	ヤマドリタケ属 (イグチ属)	ヤマドリタケモドキ

	ニガイグチ属	ミドリニガイグチ
	〃	ヌメリニガイグチ
	キアミアシイグチ属	モエギアミアシイグチ
	ベニイグチ属	ベニイグチ
ニセシヨウロ科	ニセシヨウロ属	ツチグリカタカワタケ
ベニタケ科	ベニタケ属	クロハツモドキ
	〃	クサハツ
	〃	ケショウハツ
	〃	ウコンハツ
	〃	シュイロハツ
ヒダナシタケ類		
科名	属名	
アンズタケ科	アンズタケ属	アンズタケ
シロソウメンタケ科	シロソウメンタケ属	シロソウメンタケ
カレエダタケ科	カレエダタケ属	カレエダタケ
ウロコタケ科	カタウロコタケ属	モミジウロコタケ
イボタケ科	イボタケ属	ボタンイボタケ
	〃	モミジタケ
タマチョレイタケ科	タマチョレイタケ属	キアシグロタケ
	〃	スジウチワタケモドキ
	ウチワタケ属	ウチワタケ
	シロアマタケ属	クジラタケ
	キンイロアナタケ属	ベッコウタケ
所属科未確定	オツネンタケ属	ニッケイタケ
#	当日、アワタケとしたものはコショウイグチ、アシグロタケとしたものはキアシグロタケに変更	

《行事案内》

◇ 第429回例会：

筑後川観月会

天体観察と星座、お抹茶もあります。昨年に引き続き2人の語り部のお話とオカリナの演奏があります。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：9月9日（金）小雨決行

〔集合・解散場所〕：くるめウス

〔集合・解散時間〕：19：00 21：00

〔参加費〕：300円 定員50名

〔持参するもの〕：筆記用具

〔共催〕：筑後川まるごと博物館実行委員会

◇ 第430回例会：

ネイチャーゲームと自然観察会

全国いっせいのネイチャーゲームと昆虫と植物の自然観察会を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：10月16日（日）雨天中止

〔集合・解散場所〕：高良内幼稚園駐車場

〔集合・解散時間〕：10：00 14：30

〔参加費〕：無料 定員30名

〔共催〕：四季の森ふれあい教室開催委員会

◇ 第431回例会：

久留米の歴史と文化と自然探訪

御井町周辺の史跡探訪を行います。講師は久留米郷土研究会会員の方です。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：12月10日（土）雨天中止

〔集合・解散場所〕：元御井町公民館駐車場

〔集合・解散時間〕：13：00 15：00

〔参加費〕：無料 定員30名

〔持参するもの〕：筆記用具

◇ 第7期「身近な植物ボランティア養成講座」

実施日 9月24日、10月29日、11月19日、12月17日、〔集合・解散〕：高良内幼稚園駐車場
9：30 12：00

《事務局だより》

私は6月5日に百年公園広場で開催された「第26回くるめ環境フェア」において、「くるめクリーンパートナー」の活動に対する久留米市長の感謝状を頂きました。平成14年9月から「くるめクリーンパートナー(単独)」として14年間、久留米市上津町の浦山公園を担当してまいりました。大したことなく私の散歩兼生き物観察フィールドをついでに、ゴミ拾い、倒木、枯れ木、遊具の破損、スズメバチの飛翔などの情報提供を市の環境政策課にしているだけのことです。

大木 武彦

ホームページ <http://kurumenoshizen.net>

1. 会員異動

2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙（口座番号01750-1-40114）に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

3. 原稿募集

次号129号は平成29年1月1日発行予定です。原稿の〆切は12月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会（定例）は原則として奇数月第1水曜日の19：30～21：00まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。（9月7日、11月2日、1月11日）

訂正とお詫び

久留米の自然127号5ページ動物笑い話14行目、「キョウ」を「ヒョウ」、14ページ行事案内キノコ観察会の紹介文「金子周辺」を「金子周平」へ以上のとおり訂正してお詫びいたします。

久留米の自然

平成28年9月1日第128号
発行 久留米の自然を守る会
E-mail hashida@kurumenoshizen.net
発行者 橋田沙弓
事務局 〒839-0827
久留米市山本町豊田2320-6
TEL 51-7064 FAX 51-7065 (古賀)
印刷 千年屋印刷
TEL 43-2400 FAX 43-2408